

2014 年 11 月 23 日 「真の父母様による世界統一」 石川祐司教会長

以下に、訓読のみ言を掲載いたします。

<訓読のみ言>

『天聖經』

第十篇 平和思想 第二章 平和はどのように成されるのか

第四節 世界の平和 世界主義

29 今の時は終わりの日だと言えます。世界的な教団やいかなる主義、思想でも解決が難しい時代が来ました。今日まで、人間が提示してきた主義、主張では、私たちの心の世界を包括することができず、心情の世界を安息させることはできません。哲学も、宗教も、科学も、自ら降参すべき段階に入ってきています。

ここで知るべき問題は、この世界が何を抱かなければならないのかということです。心の世界を越えて、宇宙を越えて、無限なものを抱かなければなりません。この世界が抱いている以上のその何かを抱き、その価値を謳歌することが、地上のいかなることより貴いということです。そうしてこそ、この世界を治めることができます。

今日は、世界主義の時代です。二つの陣営が対決して、世界を分ける時です。これが闘いで終わってはいけません。どちらが心を象徴し、どちらが体を象徴するのかという内容の基準を立てて解決しない限り、この世界は混乱が広がって自滅の道を避けることができなくなるのです。

30 世界において、「自由のために闘争する。自由のために生命を投入する。死を得るか、自由を得るか。自由のために生命を捧げる！」と言いますが、そうではありません。自由という問題を中心として革命を起こし、何かの団体や国を得たとしても、そこでまた、闘争が起こります。そこには、永遠の主体の概念がありません。銃剣の力で強制してでも得ようとするのです。そのような代表的な存在が共産主義です。個人主義、家庭主義、民族主義、国家主義も同様です。今は、国家主義の限界線を越えられないので、世界主義という概念の上で暮らしている人は一人もいないのです。